

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101372		
法人名	社会福祉法人せいひ会		
事業所名	グループホームせいひ 翠風ユニット		
所在地	長崎県西海市西彼町鳥加郷2201番地2		
自己評価作成日	平成29年11月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成30年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットには畑が隣接しており、四季折々の草花や作物を育てる事で、入居者に四季を感じて頂く事が出来ます。『最後まで人間らしく生きてもらうこと』を事業所の運営理念に掲げ、入居者にとっての生活の質とは何なのかを常に考えながら、日々のサービス提供に努めています。また併設のせいひ中央クリニックからは、24時間体制で医療的な支援を受けており、安心して暮らす事が出来る事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、平成27年12月に現在地に移転し、福祉と医療を共存させたシニアヴィレッジせいひ内に開設している。併設クリニックがあり、入居者・家族の医療面の安心に繋がっている。入居者が自分らしい生活を事業所でも過ごしてもらうために、職員は入居者の意欲を引き出すよう取り組んでいる。家族や入居者とゆったりと会話をすることで、生活歴をうまく汲み上げてプランに活かしている。畑仕事や縫い物、家事など思い思いに過ごしている。また、入居者の心的質を低下させないために、家族が入居者と関わることを重視している。事業所は、移転前の地域とも関わりを持ち、現在も運営推進会議や事業所主催行事への参加も盛んである。また、新しい地域でも、入居者も地域の一員として、受け入れられている。理念「最後まで人間らしく生きてもらうこと」「悔いのない介護者であること」に真摯に向き合い、実践に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『最後まで人間らしく生きてもらうこと』を事業所の運営理念に掲げ、誰もが目につきやすい玄関に掲示している。運営理念は全体会議や申し送りでも共有し、入居者が自分のペースで生活出来る事を目指している。	事業所は、理念を目に留まる玄関に掲示したり、運営推進会議の議題にあげ意味を解釈する機会を作っている。また、法人の年初式で職員に周知している。職員は、共同生活であっても個になる場が必要なことを踏まえ、入居者がそれぞれのペースで生活できるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所移転後の新しい地においても、運営推進会議に参加している区長の勧めもあり、地元夏祭りに参加するようになった。地域住民による敬老の日慰問もある。	区長から聞いた地域情報を基に地元の夏祭りに参加している。運営推進会議でも提案や情報ももらっており、区長を軸に地域交流に努めている。事業所のクリスマス会や防災訓練に地域からの参加があり、差し入れもある。また、高校生の実習受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報紙の発行やホームページの公開を行っている。運営推進会議は良い情報発信の場となっているが、感染症の予防方法や、有事の際の避難誘導方法等、外部でも役立つような情報発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における議題は、外部評価の意義目的及び結果報告をはじめ、防災訓練の結果報告に至るまで多岐にわたる。そこで抽出された提案等に関しては、可能な範囲で運営に反映させている。	年6回、年間計画を立て会議を実施している。管理者は意見を出しやすい雰囲気作りにも努めており、有意義な会議であることが議事録から窺える。毎年行う自己評価や外部評価の結果、防災訓練の報告等も行っており、事業所の現状を伝え、意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加を始め、事故報告書、利用者異動届、利用者状況一覧等の書類提出により、あるいは疑問点があれば随時尋ねる等、日常的に西海市長寿介護課と関係を築いている。	市担当課とは、運営上の不明な点や疑問点を尋ねたり、入居者状況一覧や事故報告書等書類提出を行っており、情報交換を行う等、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。また、行政から案内のある研修を職員は受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はない。研修への参加はもちろん、身体拘束廃止委員会により、情報提供や啓発を行いながら、梗塞のないケアケアの提供を目指している。	法人内に身体拘束廃止委員会を設置しており、内部研修を実施している。スピーチロックやグレーゾーンにあたる行為について、新聞記事等用い問題提起し、拘束のないケアについて周知している。職員は「ちょっと待って」ではなく、入居者に理由を説明し納得してもらう声掛けを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心とする委員会活動により、時事的に取り上げられた問題にも目を向けながら啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶと共に、会議等において職員に伝達している。実際に日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時の入退居要件説明はもちろん、改定に際しても説明を行い、理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に苦情、相談窓口について説明している事に加え、ご意見箱の設置や面会時、サービス担当者会議等において、意向を汲み取るよう努めている。サービス担当者会議への家族参加率は6割を超えている。	利用契約時に、苦情・意見窓口や意見箱設置について説明している。面会やサービス担当者会議、行事の時など、職員は家族の意向を直接尋ねている。得た情報から家族のニーズを共有し検討している。車椅子貸出、年間行事などに反映している。また、入居者の意見も取り入れ、入浴支援時間を午後へ変更している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度グループホーム全職員により開催している全体会議、週に一度の法人ミーティングに加え、二週間に一度レポート形式で職員の意見を吸い上げる事もできる。次亜水対応の加湿器導入や下清拭タオル用の保温気は職員の意見が反映された。	毎月の職員会議や日々の申し送り、レポート形式など職員の意見を表す機会を設けており、管理者が法人会議にて職員の意見等を報告し改善等を行っている。職員の自己評価、ストレスチェックを実施し、職員が希望をもって働くことのできる職場環境づくりに努めている。必要備品の購入やシフト体制など、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各部門ごとに職員それぞれの努力や実績、勤務状況を把握しており、法人総務部を通じて体制を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については職員が参加しやすい日程や時間帯で調整しているほか、外部研修については、職員掲示板や全体会議等で参加を促している。受講後は報告書や復命書を提出し、その確認により情報が共有出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は様々な研修に参加を促す等して、同業者と交流する機会を設け、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	原則として、サービスの利用以前に本人様を訪問し、ご意向を伺う事でより具体的にニーズを抽出している。抽出したニーズは介護計画に反映させ、入居後は継続的に要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は必ず質問や要望等がないか確認すると共に、入居後も電話のやり取りをはじめ面会時、あるいは行事参加等におけるリラックスした雰囲気の中で、要望がないか継続的に確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様及び家族の希望を前提として、まずどのような支援が必要なのか、他事業所ともグループホーム入居の妥当性を十分協議しながら方向性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も入居者と一緒に食卓を囲む、ともに畑を耕す等、生活共同体としての関係を築いている為、入居者を介護される一方の立場のみに置く事はなく、入居者より教わる姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域密着型の在宅事業の一つとして、家族も本人様の支援が可能な人的資源の一つとして捉えている。入居をきっかけに本人と家族の関係を断ち切る事は無い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、行きつけの美容室に外出したり、お盆や正月には外泊して親戚と会う等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。冠婚葬祭に出席する方もいる。	家族に生活歴を尋ねている。入居者との日常会話から得た情報をまとめ、お客様情報シートに生活歴の欄に加筆し、職員は情報共有している。利用者の馴染みの場所をバスハイクの目的地にしたり、携帯電話、年賀状など、人との繋がりを職員は支援している。法事や馴染みの理美容への外出、自宅への外泊など家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者がその時一人になりたいのかどうかを判断した上で、家事やレクリエーション等、入居者同士が自然な形で関わり合う事が出来るようアプローチしている。その日その日で役割分担も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて相談を受け、法人全体で関わりながら、本人や家族の希望に合ったフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や入浴中等普段の日常生活の中において、自然な形で希望を引出すように努めている。様々な理由により意向の抽出が困難な入居者については、ジェスチャー等のノンバーバルコミュニケーション等を交えたり、生活歴や家族の意向を参考にしながら検討している。	職員は入居者と1対1で会話の機会を日常の中で見出し、思いを汲んでいる。耳元で話しかけることで、本人が話しやすい雰囲気である。会話が困難な場合、身振りや筆談など非言語コミュニケーションを取り入れている。入居者は個別の日課を持ち、思い思いにリビングで過ごしている。得た情報は、ケース記録で職員は共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人様を訪問する事を原則として、家族や他事業所、医療機関等の協力を得ながら情報を収集している。入居後は日常生活の中から引き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録により、入居者の心身の状態把握に努めている。またその人らしさや生活の質を重視する為、必要以上のケアは行わず、出来ない部分を一部介助するケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族の希望、記録や生活歴等をもとに、介護計画の原案を作成している。サービス担当者会議には本人様や家族も出席し、要望等はプランに反映させている。	入居時に1週間の暫定プランにて本人の状況を把握し、本プランを作成している。サービス担当者会議には本人・家族が出席し、意向を聞いており、担当職員が作成したサービス検討表を基に職員全員の意見を取り入れたプランとなっている。実施状況はケース記録と介護経過記録から確認でき、見直しの際に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは記録として残し、職員間で情報を共有している。情報の収集は能動的な姿勢で、加えてタイムラグを設けない事を重視している。尚、収集した情報は介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には様々なサービスや設備があり、状況に応じて流動的に利用、対応が出来る。既存のサービスに捉われる事はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元夏祭りへの参加や近隣高校からの実習生受け入れ等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際は本人や家族の意向を伺い、かかりつけ医を選定して頂いている。それぞれのかかりつけ医が継続して受診出来るように支援している。	本人・家族の意向を聞き、かかりつけ医を選択してもらっている。基本的に家族が付き添っており、入院時や病状説明が難しいケースには職員も同行している。週1回老人保健施設の看護師の訪問があり、夜間急変時には、併設するクリニック院長の指示を仰いでおり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のせいひ中央クリニックの医師や看護師に加え、老健元亀の里の看護師の協力も得る事が出来る。これにより適切な受診や看護を受ける事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人・家族の意向を踏まえた医療機関を選択すると共に、医療機関の医師やワーカーと随時情報交換を行いながら、早期に退院出来るように努めている。加えて医療機関が何を求めているのか把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関し説明し、方針を共有している。また法人全体を終の棲家として捉えており、病状に関しては直接医師からの説明もある。本人様のその時の心身状態に合わせて住み替える事も可能である。	看取りに関する指針を作成しており、契約締結時に家族に説明している。また、『終末期の対応に関する意向確認書』にて意向を確認しており、状態の変化に応じて院長から説明があり、都度意向の確認を行っている。医療機関や他施設への転居等も多く、家族の意向に沿い事業所ができる限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については日頃より周知しており、状況に応じて併設している介護老人保健施設の看護職員の応援も得る事が出来る。また防災訓練において、AEDの使用や心肺蘇生についても学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消火や避難等様々な訓練を実施しており、夜間の想定も含まれている。訓練には消防団や地域住民、法人外他事業所の参加もあり、地域との協力体制が築かれている。敷地内は禁煙とし、夜間には自主点検を行う事で火災を未然に防止している。	年3回併設するクリニック・老人保健施設と合同で消防訓練を実施している。消防署立会いの下、昼間・夜間の想定で通報・消火・避難訓練を行っており、地域住民や近隣事業所員も参加している。ただし、自然災害時の施設避難計画を作成しているが、訓練はこれからである。非常時持ち出し品についても検討の余地がある。	施設避難計画に基づいた訓練の実施に期待したい。また、併設施設も含め、非常時持ち出し品の整備についての検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時のノックや入浴中の掛札等、日常的にプライバシーには配慮している。また入居者の人格を尊重し、ちょっと待って対応に注意する等、マナーについても見直している。	職員は、入居者への尊厳をもった言葉遣いや接し方をしている。研修に接遇マナーを取り入れている。居室訪問時は必ずドアノックとドアの開閉に気を付けている。失敗時は羞恥心に配慮し、入居者が安心するよう声を掛けている。個人情報事務所で保管し、守秘義務の誓約書を取っている他、家族から、写真の同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしく自分のペースで暮らしていく事を前提に、行事やレクリエーションへの参加や好みの飲み物等、質問のパターンや開閉を工夫しながら、さりげなく選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの生活ペースを大切にし、起床時間や食事時間の変更、入浴日等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際や入浴時に好みの服を伺ったり、毎朝化粧をする方もいる。また月に一度美容師の訪問があり、ご希望に応じて利用している。家族と一緒に外出し、行きつけの美容室を利用する方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳等の準備から後片付けまで、入居者と職員が共同で実施し、時には畑で収穫した作物を使用する事で楽しみを共有出来ている。食事の内容も入居者それぞれの状態に応じ、減塩やソフト食、アレルギーへの対応等が可能である。	法人管理栄養士が献立作成し、調理は併設厨房より配食される。誕生日メニューや行事食も調理が担当している。体調管理にあわせ味付けや代替えも柔軟に対応している。入居者が配膳や下膳など手伝っている。ホーム畑で野菜を栽培し、漬物づくりやその日の一品、行事の食材などに活用し、食の意欲や楽しみが増すよう取組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により立案されたメニューに基づき、毎食提供している。入居者の状態に応じ、突発的に刻みやソフト食への変更も可能である。尚、水分摂取量の少ない方には飲み物を変えて提供する等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの好みに合わせた歯ブラシや歯磨き粉の使用を前提に、状態に応じ、磨き直し等の介助を行っている。研磨剤の無い歯磨き粉を使用する方、入れ歯洗浄剤を使用される方等様々である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を減らす事で、入居者にどのような影響を及ぼすのかを十分考慮した上で、排泄の自立に向けた支援を行っている。全体的にはおむつの使用量は軽減している。	事業所では、トイレでの座位排泄を支援している。排泄チェック表を個別に作成し、支援内容を職員は検討している。自立した入居者が多く、職員は見守りながら状況確認している。本人の生活パターンを基盤に、声掛けや誘導をしている。声掛けをすることで、リハビリパンツから布パンツ使用になったり、パッド種類の軽減など事例があった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳製品提供に加え、散歩やラジオ体操等の運動、浴槽で腹部マッサージを行う等して、便秘を予防している。起床時に冷水を飲む方や牛乳に黄な粉を混ぜる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者それぞれが入浴の曜日を定める事が出来るほか、近況では柚子湯、夏場は菖蒲湯等、入浴を楽しめる工夫をしている。またシャンプーや石鹸も入居者の希望に合わせている。	毎日入浴を準備し、週3回を目安に声をかけている。希望日は本人が決めている。脱衣後、タオルで肌を覆い、羞恥心に配慮しながら入浴介助をしている。ボディーシャンプーや石鹸は入居者の好みで準備している他、本人が好む手順で、入浴介助を行っている。入浴拒否が少なく、ゆっくり会話を楽しむ時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動においてレクリエーション等でリズムを作り、夜間は空調や照明に配慮している。入居者それぞれに安心して休む事が出来る寝具を使用しており、冬場は湯たんぽや電気毛布、夏場はアイスノンを使用する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬情報や医師の指示を、申し送りや薬情を通じて共有している。頓服薬や軟膏、湿布等も用法や使用目的を含め、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き、食事の配膳等、自然に役割が分担されている。また行事やレクリエーション等、本人がやりたい事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や行事等による外出、畑作業のほか、家族の協力を得ながら墓参り等の外出や正月の外泊も支援している。近隣公園へのバスハイクには家族の参加もあった。	入居者は、職員とホーム周辺を散歩している。畑で野菜作りや洗濯干しなど、職員は本人が戸外に出たくなるよう、きっかけづくりを工夫し実践している。職員は、個別に声を掛けドライブに出掛け、気分転換している。買い物などは家族へ協力を得ている。花見やバスハイクは、家族にも呼び掛け、一緒に外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かり金制度はないが、入居者や家族の希望に応じて、所持が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は総務部にて預かる事ができ、携帯電話を所持されている方もいる。毎年、年賀状が届く方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人にとっての生活感、季節感とは何かを考慮した上で、可能な限り観葉植物の配置、テレビの音量調節、暖かみのある採光等に配慮している。	リビングは広く自然光で明るく、窓から眺める畑の野菜の成長状況から季節を感じることができる。洗面台の形状や対面式のキッチン、入居者の動線に合わせた手摺の設置等、随所に工夫がある。車椅子利用者も、ストレスなく自身で活動しやすく、掃除を手伝う入居者もいる。職員が掃除と換気を管理し快適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が過ごせる場所を設けたり、入居者の意思を尊重し、一人で寛げる空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人にとって、心地よく過ごせる居室であるかどうかを前提として、家族の協力を得ながら、居室には馴染みの寝具や家具等の持ち込みがある。	入居者が事業所での生活に馴染めるよう、筆筒や椅子、布団や化粧品等馴染みのものや好みのものの持ち込みは自由である。備付けのクローゼットを利用し、各々使いやすいよう配置している。居室にはエアコンを完備しており、乾燥予防のため、水を張った洗面器等を設置している。職員が毎日清掃をし、日に数回換気を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面では廊下に手すりを設置し、移動の際に使用するほか、浴室脱衣所には滑り止めマットも使用している。また食事の際には入居者に合った個別の椅子を使用し、食器拭きや洗濯物たたみ等、個々の能力に応じた支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101372		
法人名	社会福祉法人せいひ会		
事業所名	グループホームせいひ 爽月ユニット		
所在地	長崎県西海市西彼町鳥加郷2201番地2		
自己評価作成日	平成29年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

せいひ中央クリニックの併設により、医療面における強力なバックアップ体制を獲得して2年が経ちました。入居者の皆様にとって、より安心して暮らして頂けているものだと確信しています。また、入居者がその時必要としているサービスは何なのか、入居者にとっての生活の質とは何なのかを常に考え、グループホームの本来あるべき姿を追い求めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を掲げ、見やすい場所に掲示するとともに、日々の申し送りや全体会議等で確認し共有している。入居者がその人らしく生活出来ることを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホーム自体がシニアヴィレッジを構成しており、そこでの交流は日常的にある。また区長の誘いを受け、地元夏祭りである千日祭への参加や敬老の日の慰問等もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報紙の発行やホームページの公開を行っている。運営推進会議は良い情報発信の場となっているが、事業所からの一方的な報告とならぬよう注意している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果報告のほか様々な議題を取り上げ、得られた意見は可能な範囲で運営に反映させている。また年に一度、総括として抽出した意見や提案を運営推進会議構成員に報告し、納得を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加を始め、事故報告書、利用者異動届、利用者状況一覧等の書類提出により、あるいは疑問点があれば随時尋ねる等、日常的に西海市長寿介護課と関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会による内部研修への参加を励行し、拘束のないケアに取り組んでいる。日中玄関の施錠はない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心とする委員会活動により、時事的に取り上げられた問題にも目を向けながら啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶと共に、会議等において職員に伝達している。実際に日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時の入退居要件説明はもちろん、改定に際しても説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に苦情、相談窓口について説明している事に加え、ご意見箱の設置や面会時、サービス担当者会議等において、意向を汲み取るよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、月に一度グループホーム全職員により開催している全体会議、週に一度の法人ミーティングに加え、二週間に一度レポート形式で職員の意見を吸い上げる事もできる。次亜水対応の加湿器導入は職員の意見が反映された。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各部門ごとに職員それぞれの努力や実績、勤務状況を把握しており、法人総務部を通じて体制を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については職員が参加しやすい日程や時間帯で調整しているほか、外部研修については、職員掲示板や全体会議等で参加を促している。受講後は報告書や復命書を提出し、その確認により情報が共有出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修に参加すると共に、日々の営業活動等においても顔見知りの関係をつくり、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	原則として、サービスの利用以前に本人様を訪問し、ご意向を伺う事でより具体的なニーズが抽出出来る。抽出したニーズは介護計画に反映させ、入居後は継続して要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は必ず希望や問題点等がないか確認すると共に、入居後も電話のやり取りや面会時、あるいは行事参加におけるリラックスした雰囲気の中で、要望等がないか継続的に確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様及び家族の希望を前提として、まずどのような支援が必要なのか、他事業所ともグループホーム入居の妥当性を十分協議しながら方向性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も入居者と一緒に食卓を囲む、ともに畑を耕す等、生活共同体としての関係を築いている為、入居者を介護される一方の立場のみに置く事は無い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域密着型の在宅事業の一つとして、家族も本人様の支援が可能な人的資源の一つとして捉えている。入居をきっかけに本人と家族の関係を断ち切る事は無い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、行きつけの美容室に外出したり、お盆や正月には外泊して親戚と会う等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓のテーブル配置を考えるとともに、家事やレクリエーション等、入居者同士が自然な形で関わり合う事が出来るようアプローチしている。その日その日で役割分担も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて相談を受け、法人全体で関わりながら、本人や家族の希望に合ったフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や入浴中等普段の日常生活の中において、自然な形で希望を引出すように努めている。様々な理由により意向の抽出が困難な入居者については、生活歴や家族の意向等を参考にしながら検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人様を訪問する事を原則として、家族や他事業所、医療機関等の協力を得ながら情報を収集し、併せて日常生活の中から引き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録により、入居者の心身の状態把握に努めている。またその人らしさや生活の質を重視する為、過剰なケアはせず、出来ない部分を介助するケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族の希望、記録や生活歴等をもとに、介護計画の原案を作成している。サービス担当者会議には本人様や家族も出席し、要望等はプランに反映させている。リスク管理を前面に出し過ぎたプランとならぬよう注意している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きは記録として残し、職員間で情報を共有している。情報の収集は能動的な姿勢で、加えてタイムラグを設けない事を重視している。尚、収集した情報は介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には様々なサービスや設備があり、状況に応じて流動的に利用、対応が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元夏祭りへの参加や近隣高校からの実習生受け入れ等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際は本人や家族の意向を伺い、かかりつけ医を選定して頂いている。それぞれのかかりつけ医が継続して受診出来るように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のせいひ中央クリニックの医師や看護師に加え、老健元亀の里の看護師の協力も得る事が出来る。これにより適切な受診や看護を受ける事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人・家族の意向を踏まえた医療機関を選択すると共に、医療機関の医師やワーカーと随時情報交換を行いながら、早期に退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関し説明し、方針を共有している。また法人全体を終の棲家として捉えており、本人様のその時の心身状態に合わせて住み替えが可能である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については日頃より周知しており、状況に応じて併設している介護老人保健施設の看護職員の応援も得る事が出来る。また防災訓練において、AEDの使用や心肺蘇生についても学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消火や避難、通報等様々な種別の訓練を実施しており、夜間の想定も含まれている。これらの訓練には地元消防団や地域住民等の参加もあり、地域との協力体制が築かれている。敷地内は禁煙とし、夜間には自主点検を行う事で火災を未然に防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時のノックや入浴中の掛札等、日常的にプライバシーには配慮している。また入居者の人格を尊重し、マナーについても見直している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしく自分のペースで暮らしていく事を前提に、行事やレクリエーションへの参加や好みの飲み物等、質問のパターンを工夫しながら、さりげなく選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの生活ペースを大切にし、起床時間や食事時間の変更、入浴日等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際や入浴時に好みの服を伺ったり、行事や外出の際には化粧をする方もいる。また月に一度美容師の訪問があり、ご希望に応じて利用している。家族と一緒に外出し、行きつけの美容室を利用する方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から後片付けまで、入居者と職員が共同で実施し、時には畑で収穫した作物を使用する事で楽しみを共有出来ている。食事の内容も入居者それぞれの状態に応じ、減塩やソフト食、アレルギーへの対応等が可能である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により立案された献立メニューに基づき、毎食提供している。入居者の状態に応じ、突発的に刻みやソフト食への変更も可能である。尚、水分摂取量の少ない方には飲み物を変えて提供する等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの好みに合わせた歯ブラシや歯磨き粉の使用を前提に、状態に応じ、磨き直し等の介助を行っている。研磨剤の無い歯磨き粉を使用する方、入れ歯洗浄剤を使用される方等様々である。また口臭や風邪予防の為、うがいにはお茶を使用して		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ外しのように固執しすぎない様に注意しながら、入居者それぞれの生活習慣であるトイレでの排泄を前提とし、必要に応じて排泄パターンを把握しながら支援している。概ねおむつ使用の軽減に繋がっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳製品提供に加え、散歩やラジオ体操等の運動、浴槽で腹部マッサージを行う等して、便秘を予防している。起床時に冷水を飲む方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者それぞれが入浴の曜日を定める事が出来るほか、近況では柚子湯、夏場は菖蒲湯等、入浴を楽しめる工夫をしている。またシャンプーや石鹸も入居者の希望に合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動においてレクリエーション等でリズムを作り、夜間は空調や照明に配慮している。入居者それぞれに安心して休む事が出来る寝具を使用しており、冬場は湯たんぽや電気毛布、夏場はアイスノンを使用する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬情報や医師の指示を、申し送りや薬情を通じて共有している。頓服薬や軟膏、湿布等も用法や使用目的を含め、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き、食事の配膳や毎食の献立表の記入等、自然に役割が分担されている。また行事やレクリエーション等、本人がやりたい事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や行事等による外出、畑作業のほか、家族の協力を得ながら墓参り等の外出や正月の外泊も支援している。近隣公園へのバスハイクには家族の参加もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かり金制度はないが、入居者や家族の希望に応じて、所持が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は総務部にて預かる事ができ、携帯電話を所持されている方もいる。毎年、年賀状が届く方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人にとっての生活感、季節感とは何かを考慮した上で、観葉植物を配置したり、可能な限り日光の暖かみのある採光に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が過ごせる場所を設けたり、入居者の意思を尊重し、一人で寛げる空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって心地よく過ごせる居室であるかどうかを考慮した上で、家族の協力を得ながら、居室には馴染みの寝具や家具等の持ち込みがある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、移動の際に使用するほか、歩行練習にも活用している。また食事の際には入居者に合った個別の椅子を使用し、食器拭きや洗濯物たたみ等、個々の能力に応じた支援を行っている。		